

インストールおよびアップグレード.....	2
インストールまたはアップグレード前の手順.....	2
特定のロケールのオペレーショナル参照ストアの作成または更新.....	4
IBM 環境.....	4
Oracle 環境.....	4
JBoss 環境.....	6
インストールまたはアップグレード後の手順.....	7
10.4 で解消された制限事項.....	8
MDM Hub で解消された制限事項.....	8
ビジネスエンティティを使用する Data Director 解消された制限事項.....	9
サブジェクト領域を使用する Data Director で解消された制限事項.....	12
プロビジョニングツールで解消された制限事項.....	12
ビジネスエンティティサービスで解消された制限事項.....	13
ビジネスプロセス管理の解消された制限事項.....	13
サービス統合フレームワークで解消された制限事項.....	14
10.4 に実装された拡張要求.....	15
Data Director に実装された拡張要求.....	15
プロビジョニングツールに実装された拡張要求.....	15
10.4 の既知の制限事項.....	15
ビジネスエンティティを使用する Data Director の既知の制限事項.....	15
プロビジョニングツールの既知の制限事項.....	16
ビジネスプロセス管理の既知の制限事項.....	16
累積的な既知の制限事項.....	16
MDM Hub の既知の制限事項（累積）.....	16
ビジネスエンティティを使用する Data Director の既知の制限事項（累積）.....	19
プロビジョニングツールの既知の制限事項（累積）.....	20
ビジネスエンティティサービスの既知の制限事項（累積）.....	20
ビジネスプロセス管理の既知の制限事項（累積）.....	21
サービス統合フレームワークの既知の制限事項（累積）.....	21

Informatica プラットフォームの既知の制限事項（累積）	22
--	----

Informatica^(R) *Multidomain MDM* のリリースノートを読んで、既知の制限事項と解消された制限事項、改良点、およびサポートの変更について確認してください。また、*Multidomain MDM* のリリースノートにはインストールおよびアップグレードの問題と回避策に関する情報も含まれています。

インストールおよびアップグレード

Multidomain MDM には製品のインストールおよびアップグレードに関連する既知の制限事項があります。始める前に、これらの問題を確認してください。

インストールまたはアップグレード前の手順

既知の制限事項の中には、インストールまたはアップグレードの実行に影響を与える可能性のあるものもあります。発生する可能性のある問題を回避するには、次の問題を確認し、アップグレード前に回避策を完了します。次に、環境に特有なインストールおよびアップグレードの問題を確認します。

Java Development Kit のインストール

Oracle Java Runtime Environment (JRE) を使用する場合は、Hub コンソールを起動するマシンに JRE 1.8 のアップデート 144 以降をインストールします。Hub コンソールのバッチビューアには、JRE 1.8 のアップデート 144 以降が必要です。

(MDM-18910)

英語以外の環境での Hub サーバーのインストール

JDK 1.8 以降を使用して英語以外の言語で MDM Hub をインストールする場合、言語コードを入力する必要があります。

1. インストーラを起動するには、コマンドプロンプトを開き、Hub サーバーのインストールディレクトリに移動して、次のコマンドを入力します。

```
hub_install.exe -l <language code>
```

ここで、<language code>は優先言語です。言語コードは、言語が以下のいずれかである場合に使用します。

言語	言語コード
ポルトガル語	pt_BR
フランス語	fr
ドイツ語	de
日本語	ja
韓国語	ko
ロシア語	ru

言語	言語コード
簡体字中国語	zh_CN
スペイン語	es

(MDM-14224)

前提条件の検証をしない Hub サーバーインストール

前提条件の検証なしで Hub サーバーのインストーラを実行する場合、データベースパスワードのプロンプトにダミーの値が必要です。

1. 前提条件の検証なしで Hub サーバーのインストーラを起動するには、以下のコマンドを実行します。
`hub_install.bin -DSIPERIAN_INSTALL_PREREQ_VALIDATION=false`
2. データベースパスワードが要求されたら、ダミーの値を入力します。
インストールが続行されます。ダミーの値を指定しないと、インストールが失敗します。
(MDM-10975)

エンティティ 360 表示のアップグレードインストール

Hub サーバーをアップグレードする際、タイムアウトエラーのために entity360view.ear がインストールできないことがあります。

回避策: インストールコンポーネント、patchInstallSetup または postInstallSetup を再実行します。

または、<MDM Hub installation directory>/hub/server/bin フォルダから次のコマンドを実行します。

```
./sip_ant.sh -Dentity360view.ear.dodeploy=true deploy.entity360view-ear
```

アップグレード階層

階層マネージャでリレーションをコピーしてそれらを階層リレーションとして作成する場合、リレーションループをコピーして、ルートビジネスエンティティにリレーションループを持つ階層を作成している可能性があります。しかし、Data Director はルートビジネスエンティティレベルでデータループがあるレコードの階層を表示できません。

例えば、組織階層で、Organization ルートビジネスエンティティから Organization ルートビジネスエンティティへのリレーションループが存在するとします。そのとき、Data Director では、Informatica レコードから Informatica レコードへのデータループが存在する場合、Data Director は Informatica レコードの階層を表示できません。

アップグレードする前に、階層マネージャでリレーションを確認し、あるビジネスエンティティから同じビジネスエンティティへのリレーションループがないことを確認してください。階層マネージャにリレーションループがある場合、アップグレード後に、リレーションの再構成が必要になることがあります。

回避策:

- 階層モデルのルートビジネスエンティティとして別のビジネスエンティティを追加します。
- 代わりに、リレーションをネットワークリレーションとして作成します。

階層のアップグレードの詳細については、*Multidomain MDM* のアップグレードガイドを参照してください。

(MDM-30963)

特定のロケールのオペレーショナル参照ストアの作成または更新

sip_ant スクリプトを実行してオペレーショナル参照ストアを作成または更新すると、オペレーティングシステムのロケールを入力するように求められます。プロンプトにオペレーティングシステムのロケールが表示されない場合は、デフォルトのロケール en_US を選択します。

(MDM-31496)

IBM 環境

次の問題は、Multidomain MDM が IBM AIX、IBM DB2 または IBM WebSphere とともにインストールされるときに影響を与えます。

IBM DB2 環境での Data Director のシングルサインオン認証の設定

IBM DB2 環境では、Data Director のシングルサインオン (SSO) 認証を設定するときに、Data Director コンフィギュレーションマネージャでカスタムログインプロバイダパッケージをアップロードします。カスタムログインプロバイダパッケージのサイズが 1MB より大きい場合、Data Director コンフィギュレーションマネージャはパッケージを保存できません。

1MB を超えるカスタムログインプロバイダパッケージを使用して SSO を設定するには、次の手順を実行します。

1. 次の DB2 データベースコマンドを実行します。

```
UPDATE C_REPOS_COLUMN SET DATA_LENGTH = 50000000 WHERE TABLE_NAME = 'C_REPOS_DS_LOGIN_SETTINGS' AND  
COLUMN_NAME = 'BLOB_DATA'  
ALTER TABLE C_REPOS_DS_LOGIN_SETTINGS ALTER COLUMN BLOB_DATA SET DATA TYPE BLOB(50M)  
REORG TABLE C_REPOS_DS_LOGIN_SETTINGS  
COMMIT
```

2. Data Director コンフィギュレーションマネージャで、**[ログインプロバイダ設定]** ページを使用して、カスタムログインプロバイダパッケージをアップロードします。

(MDM-31317)

Oracle 環境

以下の問題は、Multidomain MDM が Oracle データベースまたは Oracle WebLogic とともにインストールされる場合に影響を与えます。

OracleWebLogic 12.2.1.3

Oracle WebLogic バージョン 12.2.1.3 を Multidomain MDM バージョン 10.4 とともに使用する場合、既知の制限事項に対処するために、次の追加の手順が必要です。

WebLogic 12.2.1.3 へのパッチの適用

WebLogic 12.2.1.3 環境に次のパッチが含まれていることを確認します: p26923558_122130_Generic.zip

(MDM-18967)

WebLogic 12.2.1.3 用の Java 仮想マシンの設定

Java 仮想マシン (JVM) を設定するには、JAVA_OPTIONS 環境変数を使用して、Java のオプションを設定します。

Java のオプションは、次のファイルで設定できます。

UNIX の場合: <WebLogic domain: WebLogic ドメイン>/bin/setDomainEnv.sh

Windows の場合: <WebLogic domain: WebLogic ドメイン>\bin\setDomainEnv.cmd

次の表で、Java のオプションを説明します。

Java のオプション	説明
-Djavax.wsdl.factory.WSDLFactory	デフォルトの名前空間のプレフィックスを含むサービス WSDL を呼び出す必要があります。 次の値を設定します。com.ibm.wsdl.factory.WSDLFactoryImpl
-DANTLR_USE_DIRECT_CLASS_LOADING	MDM Hub がデプロイされた WebLogic Server を起動する必要があります。true に設定します。

Hub サーバーのビルドプロパティの更新

Hub サーバーの build.properties ファイルを編集して次のプロパティを設定します。

weblogic.version=10.x

(MDM-22366)

リソースキットの .ear ファイルのデプロイ

リソースキットをインストールする場合、.ear ファイルは自動的にデプロイされません。sip_ant スクリプトのクラスパスを編集し、インストール後にスクリプトを実行して、.ear ファイルを WebLogic 管理コンソールからデプロイします。

注: 以下の例では、手順の中で .sh ファイルを参照し、UNIX システム用の構文を使用しています。

1. インストール後に失敗した場合、次のディレクトリに移動します。
<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>/hub/server/resourcekit/bin
2. sip_ant.sh ファイルを開きます。
3. 次のテキストを探して削除します。\$WLS_CLASSPATH :
\$JAVA_HOME/jre/bin/java \
\$USER_INSTALL_PROP \
-Xmx512m -classpath \
\$SIP_HOME/deploy/lib/ant.jar:\$SIP_HOME/deploy/lib/ant-launcher.jar:\$SIP_HOME/deploy/lib/ant-nodeps.jar:\$WLS_CLASSPATH \
org.apache.tools.ant.Main \
\$PARAM
4. ファイルを保存します。
5. を実行。/postinstall.sh -Dweblogic.password=<password>。
プロセスは生成された .ear ファイルを次の場所に保存します。 <MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>/hub/serverresourcekit/bin/deploy/deployed_ears。

6. WebLogic 管理コンソールを開き、生成された .ear ファイルをデプロイします。
(MDM-22847)

英語以外の Oracle および JBoss 環境での PostInstallSetup スクリプトの実行

英語以外のロケールで Oracle および JBoss の環境にインストールすると、インストールプロセス中は postInstallSetup スクリプトが実行されない。

回避策: インストール後に postInstallSetup スクリプトを実行して、EAR ファイルをデプロイします。詳細については、『*Multidomain MDM のインストールガイド*』を参照してください。(MDM-8731)

JBoss 環境

次の問題は、Multidomain MDM が JBoss およびデータベース環境とともにインストールされるときに影響を与えます。

リモートトランザクションのための JBoss EAP 7.1 でのセキュリティの有効化

JBoss EAP 7.1 環境では、remoting-connector セキュリティが有効になっていない場合、リモートトランザクションが失敗します。

この問題を回避するには、remoting-connector セキュリティを有効にします。サポート対象の Elytron セキュリティフレームワークが設定されていることを確認します。詳細については、JBoss のバグ JBEAP-13963 および JBEAP-16149 を参照してください。

(MDM-28775)

JBoss EAP 7.1 での Data Director アプリケーションの展開

JBoss EAP 7.1 環境で MDM Hub をインストールまたはアップグレードすると、Data Director コンフィギュレーションマネージャでアプリケーションの展開ステータスが失敗と表示される。

Hub コンソールの Repository Manager ツールを使用して、オペレーショナル参照ストアが検証されていることを確認します。検証後、Data Director コンフィギュレーションマネージャを使用してアプリケーションを再展開します。

(MDM-24559、MDM-24415)

JBoss クラスタでのオペレーショナル参照ストアの登録

JBoss クラスタ環境でオペレーショナル参照ストアを登録できるようにするには、standalone-full.xml ファイルで <datasources> 定義を設定します。

1. 次のディレクトリにある standalone-full.xml ファイルを開きます。
<JBoss Installation Directory>/standalone/configuration
2. <datasources> 定義を設定して変更内容を保存します。

(MDM-10952)

インストールまたはアップグレード後の手順

既知の制限事項の中には、インストールまたはアップグレードの実行に影響を与える可能性のあるものもあります。発生する可能性のある問題を回避するには、次の問題を確認し、インストールまたはアップグレード後に回避策を完了します。

Hub コンソールクライアントの設定

Hub サーバーをサイレントモードでインストールした場合、またはアプリケーションサーバーで HTTPS が有効になっていて、HTTPS ポートを使用する必要がある場合は、インストールまたはアップグレード後に build.properties ファイルを編集します。Hub コンソールには、Hub サーバマシンに接続するための Hub コンソールクライアントプロパティが必要です。

1. 次のディレクトリにある build.properties ファイルを開きます。
<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>/hub/server/bin
2. 次のプロパティを編集します。
 - console.hostname。アプリケーションサーバーがバインドするサーバーの IP アドレスまたは公的にアクセス可能なホスト名 (FQDN) を指定します。
 - console.webport。Hub コンソールが使用する必要のある、現在のノードの HTTP または HTTPS ポートを指定します。
3. ファイルを保存します。
4. Hub サーバーの EAR ファイルを再パッケージします。
 - a. 次のディレクトリに移動します。
<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>/hub/server/bin
 - b. 次のコマンドを実行します。
UNIX の場合:
./sip_ant.sh repack
Windows の場合:
sip_ant.bat repack

(MDM-31619)

オペレーショナル参照ストアのアップグレード (IBM DB2 環境)

IBM DB2 環境では、sip_ant アップグレードスクリプトを実行してオペレーショナル参照ストア (ORS) データベースをアップグレードすると、アップグレードが失敗する場合があります。この問題は、_PCTL および _HPCT テーブルの作成中に一部の SELECT ステートメントが複数の行を返すために発生します。

回避策については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

(MDM-31347)

IBM DB2 環境でのオペレーショナル参照ストアの検証

IBM DB2 環境では、オペレーショナル参照ストア（ORS）データベースをアップグレードした後、ORS 検証が警告ありで失敗する場合があります。警告は、_PCTL および _HPCT テーブルの現在のタイムスタンプの代わりに誤ったタイムスタンプを使用していることを示します。

- ▶ タイムスタンプを修正するには、次のコマンドを実行します。

```
UPDATE C_REPOS_COLUMN  
SET DATA_DEFAULT = 'CURRENT_TIMESTAMP'  
WHERE (TABLE_NAME LIKE '%_PCTL' OR TABLE_NAME LIKE '%_HPCT') and DATA_TYPE = 'TIMESTAMP'
```

(MDM-31443)

10.4 で解消された制限事項

MDM Hub で解消された制限事項

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-30832	オペレーショナル参照ストア（ORS）のベースオブジェクトのカラムの表示名に特殊文字が使用されていると、アップグレードスクリプトが ORS の更新に失敗する。
MDM-30513	RESTORE メッセージトリガが、キューへのメッセージのパブリッシュに次のエラーで失敗する。 ArrayIndexOutOfBoundsException:18
MDM-29675	mdmsupport.war ファイルに最新の jackson JAR ファイルが含まれない。
MDM-28983	ランディングテーブルカラムを削除すると、メモリリークが発生する。
MDM-28068	IBM DB2 環境で、多数の同時バッチジョブが実行されると、スレッド接続が開いたままになる。DB2 がログをリサイクルできないため、データベースがクラッシュする。
MDM-27814	一致したレコードが多数あるデータセットに対して一致ジョブを実行すると、一致ジョブのパフォーマンスが低下する。
MDM-27657	Microsoft SQL Server 環境では、ステージジョブは 1 つのレコードしか処理できない。
MDM-27201	MDM Hub のベースオブジェクト名が 5 文字未満の場合、外部一致ジョブが次のエラーで失敗する。 Error executing job:Invalid length parameter passed to the LEFT or SUBSTRING function.
MDM-26689	一致バッチジョブ中に、動的一致しきい値を使用してスキップする検索範囲を決定すると、一致バッチジョブのパフォーマンスが低下する。
MDM-26418	一致ジョブ中に、_STRP テーブルが破損していると、一致ジョブが失敗することがある。

参照番号	説明
MDM-26038	ベースオブジェクトに NULL 可能カラムと NULL 可能ではないがデフォルト値があるカラムがある場合、編集相互参照レコードがマージ解除に失敗する。 次のエラーが発生します。 ORA-01407: cannot update ("ORS"."C_TABLE"."COL<n>") to NULL
MDM-22528	クレンジングトランスフォーメーションマッピングからパラメータを削除して変更を適用すると、パラメータをマッピングに追加できない。
MDM-21986	自動マージプロセス中に前方一致レコードが作成されると、プロセスの実行が遅くなる可能性がある。
MDM-20337	MdmKeyStore クラスを使用するときに、ファイル記述子のリークが FileNotFoundException エラーを引き起こす。
MDM-20332	PUT 更新が管理ソースシステム以外のソースシステムからのものである場合、作成された相互参照レコードはマージ解除できる。そのベースオブジェクトの他のすべての相互参照レコードが PUT 呼び出しの結果であっても、相互参照レコードはマージ解除される。
MDM-19869	一致分析レポートに、一致の品質とパフォーマンス間のトレードオフが表示されない。
MDM-17156	MDM ユーザーに Blowfish が表示される。
MDM-17047	自動マージプロセス中に前方一致レコードが作成されると、プロセスの実行が遅くなる可能性がある。
MDM-16105	WebLogic 環境で、WebLogic サーバーを起動すると、MDM Hub でエラーが発生する場合がある。
MDM-12502	Hub コンソールを閉じた後、Hub コンソールに関連付けられたプロセスがマシン上で引き続き実行される。
MDM-7853	遷移一致中に、HMRG テーブルの ROWID_MATCH_RULE カラムに誤った値が表示される。
MDM-1578	Hub コンソールのデータマネージャツールを使用してアクティブな相互参照レコードを削除すると、レコードは削除されるがエラーが発生する。

ビジネスエンティティを使用する Data Director 解消された制限事項

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-30521	【検索】 タブの検索結果パネルで子カラムを並べ替えることができない。
MDM-30260	クエリを作成するとき、子ビジネスエンティティが属する親を知らないと、正しい子ビジネスエンティティフィールドを選択できない。
MDM-30193	【フォーム】 ビューでレコードを作成または編集できない。

参照番号	説明
MDM-30188	ルックアップフィールドの検証エラーが発生した後、正しい値を保存できない。
MDM-30078	検索結果に CHAR データ型のルックアップフィールドの値が表示されない。
MDM-29828	Chrome 78 以降で Data Director を起動すると、フィールドラベルが [相互参照レコード] ビューに表示されない。
MDM-29546	Data Director が HTTPS 負荷分散 URL を使用する場合、レコードを開いたり作成したりするなどのアクションを実行すると、エラーが発生することがある。
MDM-28943	1000 件を超える相互参照レコードが関連付けられているレコードを開くと、ORA-01795 例外が発生する。
MDM-28589	Data Director を英語以外の言語で表示すると、タスクインボックスの [ステータス] カラムが空になる。
MDM-28400	Hub コンソールを使用して MDM Hub マスタデータベースのロックを取得すると、Data Director にログインしているすべてのユーザーのセッション ID がクリアされる。Data Director は SIP-18017 エラーを生成する。
MDM-28218	ラベル形式のビジネスエンティティフィールドに純粋な数値が含まれていると、ラベルが日付として表示される。
MDM-27979	保留中のレコードが検索クエリの結果に表示される。
MDM-27691	タスクマネージャ には複数のスクロールバーがあるため、ユーザビリティの問題がある。
MDM-26319	統合インジケータ 9 を持つレコードのマージタスクを作成すると、マージプロセスが失敗する。
MDM-26153	[一致したレコード] ビューでは、すべてのレコードを選択するオプションは使用できない。
MDM-26101	ユーザーがタスクを要求した後、またはタスクの所有者を更新した後、 タスクマネージャ は自動的に更新して変更を表示しない。
MDM-26076	タスクマネージャ で、一致したレコードを一致ルールでフィルタリングすると、次のエラーが表示される。 SIP-50225: The Interaction ID of a pending merge record does not match the Interaction ID which was specified in the request.
MDM-25806	ルックアップレコードを検索すると、レコード結果が Data Director の [フォーム] ビューに表示されない。
MDM-25745	保留状態のレコードへの変更を保存すると、不明確なエラーメッセージが表示される。
MDM-25591	ユーザーがマージタスクから削除したレコードが、マージプロセスに参加する。
MDM-25329	サービスデータオブジェクト (SDO) コードが IBM WebSphere アプリケーションサーバー環境で実行されると、パフォーマンスに影響することがある。
MDM-25098	タスクマネージャ のすべてのページでタスクを検索することができない。

参照番号	説明
MDM-24712	レコードを作成すると、フォーム内のフィールドが重複するため、ユーザビリティの問題が発生する。
MDM-24385	検索文字列にアクセント記号付き文字が含まれていると、レコードが検索結果に表示されない。
MDM-24342	フィールドにクレンジングの検証が設定されていると、入力された不正な値が修正されてもエラーメッセージが表示される。
MDM-24144	デフォルトのビジネスエンティティでカスタムビジネスエンティティビューを使用してレコードを作成すると、ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのクレンジングトランスフォーメーションが、ルックアップフィールドでは機能しない。
MDM-24020	管理者がビジネスエンティティを更新するタスクを拒否すると、レコードがベースオブジェクトと相互参照テーブルから削除されない。
MDM-23608	シングルサインオン（SSO）を使用してログインすると、レコードを検索できない。
MDM-22850	クレンジング関数を使用するビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを使用すると、クレンジング関数が2回呼び出される。
MDM-22817	子レコードを子レコードに存在しない日付でフィルタリングすると、一致しない日付のレコードが表示される。
MDM-22519	検索結果の一部の行が空になる。ユーザーにレコードを表示する権限がないため、行にフィルタで除外されたレコードが表示されます。
MDM-22369	タスクから変更されたレコードをプレビューするときに、プレビューで子レコードの一部の変更された値の横に変更バーが表示されない。
MDM-20688	ユーザーがタスクを要求すると、タスクインボックスに確認メッセージが表示されない。
MDM-19944	Data Director がクレンジング関数を使用して値を処理することによりルックアップ値を入力すると、ユーザーがレコードを作成するときに次のエラーが発生する。 SIP-14396: The unique constraint on base object was violated.
MDM-18555	複数のベースオブジェクトのカラムが単一のルックアップテーブルに関連付けられている場合、検索結果が表示されない。
MDM-17819	ビジネスエンティティスキーマを生成した後、オペレーショナル参照ストアの検証が失敗する。
MDM-17410	データを一括でインポートできない。
MDM-17395	【ビジネスエンティティ】 ビュー、 【一致したレコード】 ビュー、および 【相互参照レコード】 ビューの日付フィールドに日付とタイムスタンプが表示される。
MDM-17373	レコードビューに従来の 【マージのプレビュー】 が含まれている場合、プロビジョニングツールがエラーを表示する。
MDM-16861	レコードのクレンジング検証が失敗すると、誤った子レコードフィールドが強調表示される。

参照番号	説明
MDM-16374	階層マネージャで大きな階層を開くことができない。アプリケーションがタイムアウトする。
MDM-4288	アプリケーションサーバークラスタ環境では、Data Director アプリケーションに加えた変更は、すべての MDM Hub ノード間で同期される。

サブジェクト領域を使用する Data Director で解消された制限事項

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-30788	サブジェクト領域のある Data Director を使用して、ユーザーがビジネスエンティティのある Data Director によって追加したコメントを表示すると、コメント内の単語間のスペースが「%20」に置き換えられる。
MDM-30169	レコードのタイムラインに新しい開始日と終了日を追加すると、Data Director はイベントの相互参照レコードを作成せず、イベントを保存しない。
MDM-29820	外部リンクを Data Director のカスタムの最上位のタブとして設定すると、暗号化されたパスワードを認証に使用できない。
MDM-28985	検索結果に 1 対多の子レコードが含まれていると、カスタムプロファイルを含む検索結果のエクスポートが失敗する。
MDM-25368	[個人ビュー]、[一致したレコード] ビュー、[履歴] ビュー、または [相互参照レコード] ビューで親レコードを表示すると、ラベル名に日付が表示される。
MDM-26949	ROWID_OBJECT を表示フィールドとしてルックアップフィールドを設定すると、データセキュリティフィルタが機能しない。
MDM-26800	ベースオブジェクトのルックアップカラムに subTypeQualifier フィルタを設定すると、正しいルックアップ値が Data Director アプリケーションに表示されない。
MDM-25697	タスク管理で、管理者特権を持つユーザーがタスクを要求できない。
MDM-25645	[タスクの詳細] ウィンドウで、49 文字を超えるファイルを添付し、承認のために送信する。同じファイルをダウンロードしようとする、ファイル拡張子が切り捨てられる。
MDM-23852	複数のサブジェクト領域に、依存ルックアップとして定義されているが、異なるフィルタ条件を持つ同じアプリケーションカラムがある場合、依存ルックアップ値が空白になる。
MDM-13822	マージタスクを否認できない。

プロビジョニングツールで解消された制限事項

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-27974	依存ルックアップフィールドが欠落しているレコードビューレイアウトを MDM 管理者が保存すると、検証エラーが表示されない。
MDM-27075	複数レベルの依存ルックアップを設定すると、エラーが発生する場合がある。
MDM-26720	ルートビジネスエンティティノードの下で 3 つ以上のノードである子ノードで検索可能なフィールドを設定すると、スマート検索データの初期インデックス処理バッチジョブが失敗する。 次のエラーが発生します。 SIP-10322: ORA-00904: "<column Name>": invalid identifier.
MDM-22528	クレンジングトランスフォーメーションマッピングからパラメータを削除して変更を適用すると、パラメータをマッピングに追加できない。
MDM-22457	重複名のあるレイアウトをパブリッシュすると、パブリッシュプロセスがエラーで失敗する。
MDM-21991	レコードビューに従来の【マージのプレビュー】が含まれている場合、プロビジョニングツールがエラーを表示する。
MDM-13754	書き込みロックが Hub コンソールで取得されると、プロビジョニングツールが想定どおりに機能しない。

ビジネスエンティティサービスで解消された制限事項

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-30520	検索レコード REST API 呼び出しを行うときに、検索結果のレコードが削除済み状態の場合、次のエラーが発生する。 SIP-50105: User does not have the required rights.
MDM-25358	削除 REST API を使用して子レコードを削除すると、次のエラーが表示される。 SIP-50100: com.informatica.mdm.cs.server.CompositeServiceInvoker: Error in service execution
MDM-28625	Informatica Data Quality からのビジネスエンティティサービス呼び出しで検証エラーが発生する。
MDM-19209	ビジネスエンティティサービス呼び出しで子レコードが更新されても、子相互参照レコードのシャドー親レコード ID が更新されない。

ビジネスプロセス管理の解消された制限事項

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-25437	セキュリティペイロードを返すユーザーのワンステップ承認のワークフロープロセスをトリガすると、プロセスがデータベースにペイロードを挿入できない。

サービス統合フレームワークで解消された制限事項

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-30506	Restore SIF API 呼び出し中に、データソース接続リークが発生する。
MDM-29187	SearchQuery SIF API 呼び出しでカスタムクエリパッケージを使用すると、誤った API 応答を受け取る。
MDM-26611	ベースオブジェクトが複数のソースシステムからの相互参照レコードに関連付けられている場合、Restore SIF API が指定された相互参照レコードをリストアしない。API は最後に追加された相互参照レコードをリストアする。
MDM-26225	DeletePending API 呼び出しで、親ベースオブジェクトの保留中のレコードと、子ベースオブジェクトのアクティブレコードが削除される。
MDM-24786	MDM サンプルのオペレーショナル参照ストア（ORS）を使用すると、GetOneHop SIF API が次のエラーを生成する。 SIP-14105: Unexpected error occurred while processing request: GetOneHopRequest java.lang.NullPointerException
MDM-24438	同じベースオブジェクトの異なる相互参照レコードに対して Put および Delete SIF API 呼び出しを並行して行くと、Delete API 呼び出しが失敗する。
MDM-22670	ExecuteBatchDelete SIF API を実行して 5000 件を超えるレコードを削除しても、すべてのレコードは削除されない。
MDM-12952	Hub サーバーとプロセスサーバーが HTTPS プロトコルを使用している場合でも、生成するサービス統合フレームワーク（SIF）WSDL が HTTP プロトコルの使用を示す。

10.4 に実装された拡張要求

Data Director に実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

参照番号	説明
MDM-8506	タスクは、サブジェクト領域に基づいて分類されます。
MDM-8137	タスクは、サブジェクト領域とユーザーロールに関連付けられています。必要な権限を持つユーザーロールは、タスクを表示および編集できます。

プロビジョニングツールに実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

参照番号	説明
MDM-28096	レコードビューのレイアウトを設定して、単一のビジネスエンティティのフィールドをレイアウト内の複数のコンポーネントに分散させることができます。

10.4 の既知の制限事項

このセクションでは、10.4 で見つかった既知の制限事項を示します。

ビジネスエンティティを使用する Data Director の既知の制限事項

以下の表に 10.4 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-31951	【ホーム】 ページのタスクインボックスコンポーネントで、階層タスクを表示できない。
MDM-31384	【階層】 ビューと 【ネットワーク】 ビューで、 【クイックビュー】 タブの設定がビジネスエンティティビューのレイアウトに基づいている場合、SIP-50139 エラーが発生する。 【クイックビュー】 タブが開かない。
MDM-31165	新規ファイルのインポート操作を使用してリレーションとタスク承認ワークフロートリガをインポートすると、操作が失敗し、次のエラーが表示される。 SIP-10321: Error adding relationship record.
MDM-30602	階層にワークフローが関連付けられていると、階層リレーションをインポートできない。

プロビジョニングツールの既知の制限事項

以下の表に 10.4 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-31531	複数のユーザーが同時に一致ルールセットを作成しようとすると、検証エラーメッセージなしで、同じビジネスエンティティ、または同じルートベースオブジェクトテーブルに属するビジネスエンティティを選択できる。ファイルのインポート中に、次のエラーメッセージが表示される。 ビジネスエンティティ<ビジネスエンティティ名>のデータを削除できません。
MDM-31311	英語以外の言語のサンプルデータを使用して一致ルールセットを作成できない。

ビジネスプロセス管理の既知の制限事項

以下の表に、10.4 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-34263	Azul Zulu JDK を使用する Linux 環境で、ActiveVOS インストーラを実行すると次のエラーが表示される。 java.lang.Error: Probable fatal error:No fonts found... 回避策: 見つからないフォントをインストールするには、次のコマンドを実行します。 sudo yum install fontconfig dejavu-sans-fonts dejavu-serif-fonts

累積的な既知の制限事項

このセクションでは、前のリリースから引き継がれた既知の制限事項を示します。

MDM Hub の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-31423	複数の一致ジョブおよびマージジョブを実行するか、異なるベースオブジェクトに対してマージジョブを並行して実行すると、ジョブが失敗する。 回避策: 順番に一致ジョブおよびマージジョブを実行、またはジョブをマージします。
MDM-24156	SAML ベースの認証を使用すると、ユーザーが Data Director でレコードを検索したり、Hub コンソールにアクセスしたりできなくなる。 回避策: SAML ベースの認証を使用するには、MDM Hub で外部認証ユーザーとしてユーザーを作成します。

参照番号	説明
MDM-22756	HTTPS プロトコルでサポートツールを実行する場合、照合分析ツールから [CSM] タブに移動すると、エラーが発生する。
MDM-22528	クレンジングトランスフォーメーションマッピングからパラメータを削除して変更を適用すると、パラメータをマッピングに追加できない。
MDM-22143	Multidomain MDM 10.3 for IBM DB2 と Dynamic Data Masking 9.8.4 を統合して、DB2 用のセキュリティルールセットを作成すると、影響を受けるマスターデータがマスクされない。
MDM-19586	WHERE 句のパターンの検証ルールが適用されているとき、WHERE 句のパターンに一致するレコードだけではなく、すべてのレコードに対して信頼がダウングレードされる。
MDM-16869	Hub コンソールで、管理者以外のユーザーが階層マネージャエンティティを作成できない。
MDM-15369	中国語の文字がステージングテーブルに読み込まれると、一部の中国語の文字が破損する。
MDM-10792	パーティション化されたテーブルがデータベースに含まれている場合、メタデータ検証プロセスで次の警告が生成される。 SIP-PV-10233 (31) - The tablespace of a table in the database differs from the tablespace specified in the metadata. この警告は無視して構いません。
MDM-10476	1 つのレコードと大量の相互参照レコードのマージを解除すると、プロセスサーバーでメモリ不足エラーが生成される。
MDM-10201	変更リストを階層が有効になったスキーマに昇格させるには、MDM Hub 管理者特権が必要となる。
MDM-9902	ベースオブジェクトで [相互参照の昇格の履歴を有効にする] を有効にしても、相互参照の昇格の履歴が保持されない。
MDM-9816	WebSphere を使用してポートが異なる 2 つのマッピングレットがある Informatica Data Quality クレンジング関数を更新すると、次のエラーが表示される。 SIP-11134: Compile failed for compile command

参照番号	説明
MDM-9604	<p>ビジネスエンティティ設定を使用して空の変更リストをオペレーショナル参照ストアに昇格させると、昇格に失敗して次のエラーが表示される。</p> <p>'CO CS Configs\TaskConfiguration\Task Types\AVOSBeNotification\Task Roles\DataSteward' が依存しているため、オブジェクトを削除できません。 (deleteRole[id:ROLE.DataSteward])</p> <p>回避策: DataSteward ロールをターゲットのオペレーショナル参照ストアから削除してから、変更リストを昇格させます。</p>
MDM-8588	<p>初めて Hub コンソールでスキーマをインポートするときに、次のエラーが表示されることがある。</p> <p>missing initial moveto in path definition</p> <p>このエラーは無視しても問題ありません。</p>
MDM-7592	<p>ベースオブジェクトのカラムにマッピングされていないソースシステムで、カラムの有効な値が NULL 値でオーバーライドされることがある。例えば、SourceA と SourceB が BaseObjectC に関係しているとします。SourceA は、最小信頼度と最大信頼度の設定がゼロの状態では ColumnX にマッピングされています。SourceB は、ColumnX にマッピングされておらず、その信頼設定はありませんが、BaseObjectC のほかのカラムにマッピングされています。SourceB で BaseObjectC が更新されると、ColumnX が誤って NULL 値で更新されます。</p> <p>回避策: SourceA の最小信頼度の設定を 2 以上に変更します。</p>
MDM-5830	<p>MDM Hub のインストール後に、WebSphere アプリケーションサーバーのユーザー名とパスワードがインストールログに表示される。</p>
MDM-1578	<p>Hub コンソールのデータマネージャツールでアクティブな相互参照レコードを削除すると、レコードは削除されるがエラーが発生する。このエラーは無視しても問題ありません。</p>

ビジネスエンティティを使用する Data Director の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-24316	10.2 以前のバージョンからアップグレードすると、管理者以外のユーザーがアプリケーションにログインできない。プロビジョニングツールで作成したアプリケーションでアップグレードした Data Director アプリケーションと同じ名前を使用すると、この問題が発生する。
MDM-24156	SAML ベースの認証を使用すると、ユーザーが Data Director でレコードを検索したり、Hub コンソールにアクセスしたりできなくなる。 回避策: SAML ベースの認証を使用するには、MDM Hub で外部認証ユーザーとしてユーザーを作成します。
MDM-23745	40 を超える値を持つルックアップリストを含むカラムをソートすると、ソートが失敗する。
MDM-23092	複数のタブを使用してレコードを作成し、 [適用] ボタンをクリックすると、レコードが保存されない。
MDM-22587	タイムラインに基づく検索結果をエクスポートするときに、エクスポートプロセスがタイムラインを無視してすべてのデータをエクスポートする。
MDM-22811	簡単なマージコンポーネントで、日付値を変更するときに、カレンダーが正しく表示されない。 回避策: 日付を入力します。
MDM-21692	カレンダーのコントロールがローカライズされていない。
MDM-18665	[ステータスコード] コードを削除するときに、次のエラーが発生する。 Cannot read property 'taskId' of undefined 回避策: このフィールドは、編集はできますが削除はできません。
MDM-18157	Chrome で、インタフェースを中国語で表示すると、一部のボタンラベルが切り捨てられる。
MDM-14460	アプリケーションサーバーのタイムゾーンがクライアントのタイムゾーンと異なる場合、履歴ビューのイベントの時刻がイベントの詳細パネルの時刻と異なる。
MDM-14327	ビジネスエンティティの子レコードの検索結果が複数のページにわたり、表示されるページの範囲外のページ数を入力した場合、それ以降に検索結果のページを表示しようとすると失敗し、エラーが発生する。
MDM-8764	サブジェクト領域設定からビジネスエンティティスキーマを生成する場合、必須ルックアップフィールドがビジネスエンティティビュー設定またはトランスフォーメーション設定に含まれない。
MDM-8606	[一致するレコード] ビューで、レコードをマージすると、システムが応答しないように見える場合がある。 回避策: マージジョブが終了するまで待機します。
MDM-7597	レコードを削除した後でそのレコードを検索しても、削除したレコードの ROWID が依然として表示される。

参照番号	説明
MDM-2699	カレンダーで、1000 年 1 月 1 日より前の日付を設定できない。
MDM-2574	タスクインボックスで、所有者のフィルタを「要求なし」に設定しても、引き受けが解除されたタスクのリストが返されない。

プロビジョニングツールの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-22531	読み取り専用フィールドに複数のデフォルト値を設定すると、プロビジョニングツールが検証エラーを表示する。 回避策: クレンジングジョブを使用して、読み取り専用フィールドにデフォルト値を設定します。
MDM-20600	Hub コンソールからベースオブジェクトを削除するときに、プロビジョニングツールはベースオブジェクトを表示し続け、検証エラーを生成しない。 回避策: ベースオブジェクトを削除する場合、プロビジョニングツールで関係するビジネスエンティティを更新します。
MDM-14528	別のトランスフォーメーションと同じ名前で作成したトランスフォーメーションを作成した場合、検証エラーメッセージが表示されない。エラーが表示されるのは、変更内容をパブリッシュしようとした場合のみです。
MDM-14449	2 つ以上のビジネスエンティティで参照される参照エンティティでフィールドを検索可能にすると、フィールドがすべてのビジネスエンティティで検索可能になる。 さらに、どのビジネスエンティティでも参照されない参照エンティティでフィールドを検索可能にすると、フィールドが検索できなくなります。 回避策: 1 つのビジネスエンティティでのみ参照される参照エンティティでフィールドを検索可能にします。
MDM-8844	プロビジョニングツールを使用して設定の変更をパブリッシュする場合、IDD コンフィギュレーションマネージャでビジネスエンティティスキーマを生成すると、これらの変更を上書きできる。
MDM-7219	最後のスラッシュを省略すると、プロビジョニングツールの起動に失敗する。 回避策: <code>http://host:port/provisioning/</code> のように、URL の最後にスラッシュを追加します。

ビジネスエンティティサービスの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-10553	削除された孫レコードに対して複合サービス読み取りを実行しても、ビジネスエンティティサービス呼び出しでデータが返されない。

ビジネスプロセス管理の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-22986	ActiveVOS をインストールするときに、管理者ユーザーパスワードが ActiveVOS インストールプロパティファイルにプレーンテキストで保存される。
MDM-9079	ActiveVOS コンソールで、[MDM ID プロバイダ] ページの [MDM 接続設定パスワード] フィールドに、MDM Hub ユーザー名 admin のパスワードを入力する必要がある。他のユーザーが管理権限を持っていても、そのユーザーのパスワードを使用することはできない。
MDM-9041	複数のワークフロートリガがアクションに適用されている場合、後続のトリガがビジネスエンティティに固有であっても、最初に適用できるトリガが適用される。 回避策: タスク構成ファイルで、ビジネスエンティティ固有のトリガをファイルの先頭に配置します。一般性の高いトリガをファイルの末尾に配置します。
MDM-8763	MDM Hub と埋め込み ActiveVOS を同時に Linux 環境にインストールすると、postInstallSetup.log に次のエラーが表示される。 [exec] Unable to locate tools.jar. Expected to find it in /data/tmp/install.dir.12594/Linux/resource/lib/tools.jar このエラーは無視しても問題ありません。
MDM-8622	バージョン 9.7.1 から ActiveVOS タスクをインポートする場合、バッチファイルを実行してプレゼンテーションパラメータをタスクに追加すると、エラーが発生する。 このエラーは無視しても問題ありません。
MDM-8086	MDM Hub によって設定されたタスクの優先度を使用して ActiveVOS エスカレーションをトリガできない。

サービス統合フレームワークの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-30069	削除されたレコードを POST Update API を使用してリストアする場合、BVT 計算がトリガされず、リストアされたレコードの値が正しくない。
MDM-19151	DeleteMatches サービスが InteractionID によりブロックされたデータを正しく処理しない。

Informatica プラットフォームの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-18229	Linux 環境で、Informatica プラットフォームをインストールするオプションが使用できない。